

平成30年度 鳥取県議会ベトナム訪問団 報告書

[平成30年10月22日(月)～26日(金)]



鳥取県議会

1 訪問日程及び訪問先

平成30年10月22日（月）～26日（金）

ベトナム社会主義共和国

※詳細は「4 日程表」のとおり

2 訪問団メンバー

団長 安田 優子 議員

副団長 福田 俊史 議員

秘書長 西川 憲雄 議員

野坂 道明 議員

<随行> 議会事務局 調査課 課長 竹内 和久

係長 小泉 陽一

3 所感及び県政に対する提言

今年はベトナムと日本との国交樹立45周年となる節目の年であり、ベトナム及び日本各地において記念事業や交流イベントが開催されるなど、日越の関係がさらに緊密化している。

そうした中、本県議会として初めてとなるベトナム訪問団は、近年増加が著しいベトナム人技能実習生をはじめとした外国人材の活用のあり方について調査するとともに、本県とベトナムとの経済、観光分野等での交流の拡大を図るべく、鳥取県産食品の輸出可能性や観光誘客のための方策等について調査することを目的に、ベトナム社会主義共和国のハノイ市とホーチミン市を訪問した。

まず、ベトナム人技能実習生をはじめとした外国人材の活用のあり方について、所感を述べる。

2017年10月末現在、本県で働く外国人労働者は、2,324人で、在留資格別では、「技能実習」が最も多く1,314人、国籍別では、ベトナムが最も多く724人となっている。

2014年のデータと比較すると、本県で働く外国人労働者は、3年間だけで実に36.3%も増加しているところであり、特に、ベトナム人技能実習生の増加は著しく、242人から659人と、3倍近く増加している。現在、製造業を中心に、建設業、宿泊・飲食業などで受け入れが進んでおり、昨年11月には、介護職種が新たに追加されたところである。

さらに、来年4月からは、出入国管理法の改正により、新たな在留資格による受け入れが開始される予定であり、外国人労働者数は、今後もさらに増加することが見込まれる。

そうした中、今回の調査で訪問した、技能実習生向けに設置された教育センターでは、約1,000名の学生が全寮制で学んでおり、見学をさせていただいたクラスでは、実際に、鳥取県での受け入れが決定している学生が、熱心に日本語や、日本の生活、文化等を学んでいた。我々訪問団に大きな声で挨拶をしてくれ、「鳥取県はどんなところですか」と日本語で、一生懸命質問する姿に、ベトナムの若者の、日本で技術・知識を身に付けたいという思いを強く感じ取ることができた。

また、滞在中に意見交換をさせていただいた、ベトナム労働・傷病兵・社会問題省海外労働局のリエム副局長からも、「日本へ技能実習に行きたい学生が増えているので、今後も是非、受け入れについて、協力をお願いしたい」とのお話をいただいたところである。

技能実習生については、国際貢献の観点はもとより、本県にとっても、事業所の活性化などが期待できるところであり、引き続き、その受け入れが円滑に行われることが望まれる。

その一方で、全国的に、労働環境やコミュニケーションの問題などが指摘されている。鳥取県では、既に「外国人就労対策会議」を設置し、課題の把握や、支援策をまとめたリーフレットの配付等に取り組んでいるところであるが、来年4月から受け入れが開始される予定となっている、新たな在留資格者への対応についても早急に検討を進める必要があり、今後さらに、国、市町村、関係機関等との連携を強化し、就労環境の改善や、外国人労働者も暮らしやすい地域社会づくり、更には、多文化共生に係る県民理解の促進に取り組む必要があると感じた。

また、専門的知識や技術を有する高度外国人材の活用を希望する企業も増加している。企業の競争力を高めていくためには、県内の人材を最大限活用することはもとより、優秀な人材を本県に呼び込み、定着させることも重要であり、高度外国人材の活用は、その一つとして積極的に取り組む必要がある。

現在、鳥取県では、高度人材の活用に向けた企業向け研修や、マッチング機会の提供などを行っているところであるが、県内で働く高度外国人材はあまり増えておらず、ベトナム人の高度外国人材は、2017年9月現在で9名のみとなっている。

今回、日本留学センターを訪問し、卒業後に日本での就職等を目指す大学生とお会いしたが、やはり東京、大阪といった都市部での就職を希望する学生が大多数であった。彼ら高度外国人材の卵に、いかに鳥取県に目を向けていただけるかが課題であり、例えば、ベトナムの大学・日本語学校等へのPRや連携などについても、今後、検討していく必要があると感じた。

なお、来年、鳥取市と米子市に新たに2校の日本語学校が開校される予定である。

鳥取城北日本語学校は、県内企業等での就職が内定した大学卒業者を対象とするもので、鳥取市や地元団体等と連携して、高度外国人材の確保に取り組むとお伺いしている。

また、米子日本語学校は、高度外国人材の卵とも言える大学留学希望者等を対象とするもので、将来的な高度人材の確保に加え、大学の国際化、若者世代の交流促進など、広がりが見込める。

こうした県内日本語学校との連携や支援も含め、今後、留学生の受け入れ拡大や、県内企業への就職促進に取り組む必要があると感じた。

次に、ベトナムへの鳥取県産食品の輸出可能性について、所感を述べる。

ベトナム経済は、2018年上半期の実質GDP成長率が7.1%に達し、貿易黒字額も過去最高を記録するなど、堅調な経済成長を背景に、国内消費も拡大傾向にある。

日本からベトナムへの農林水産物・食品の輸出額も増加しており、2017年の輸出額は、対前年比22.4%増となる395億円と、過去最高を記録。国別でもタイを抜いて第6位となっている。

調査のため訪問した日本産食品を取り扱うスーパーマーケットでも、現在、日本からベトナムへの最大の輸出品目となっている「粉ミルク」をはじめ、「海産物」、「日本酒」など多種多様な日本産食品が販売されており、訪問先からも、信頼性が高い日本食品に対する需要が高まっているとお聞きした。また、その他の日本食では、「焼肉」、「うどん」、「ラーメン」等の人気も高いとお聞きした。実際に訪れた日本食レストランもベトナム人客で賑わっており、日本の食が浸透しつつあることを実感した。

一方で、ベトナム産の商品はかなり安価である。ペットボトルの水は約20円、即席麺は約30円で販売されており、一般消費者向けの商品を輸出する場合は、相当安価でないと勝負ができないことが分かる。スーパーマーケットでも、輸出コストにより、日本の価格の数倍となっている商品も多く、現在のベトナムで販路開拓を行う場合、いかにして高所得者層を取り込むかが重要であると感じた。

そうした中、鳥取県として注目すべき動きの一つとして、2017年1月に、ベトナム向けの梨の輸出が解禁となったことが挙げられる。既に、昨年からは、茨城県の幸水等、日本産梨の輸出が始まっており、今年8月末には、福岡県産の二十世紀梨の輸出も開始されている。

訪れたデパートでは、実際に日本梨が販売されていた。お話を聞くと、ベトナム人は梨が好きだが、やはり、一般消費者にとっては日本からの輸出梨は値段が高く、日本のように大量に並べる状況にはないとのことであった。

しかし、ジェットロホーチン事務所でお話をお伺いしたところ、高所得者層を中心に、お供え用や贈答用として需要が伸びているとのことであった。ベトナム人の8割が仏教徒で、家にある先祖の祭壇に果物をお供えする習慣があり、季節によって梨もお供えするとのことであった。贈答用としては、9月の中秋の名月と2月の旧正月の前後で梨が売れるとのことであり、鳥取県産の梨が受け入れられる可能性は十分にあると感じた。

輸出のコストやロット等を考えると、必ずしも直ちに県内生産者の所得向上に繋がるとまでは言えないものの、将来のマーケット拡大を見据え、まずは、高所得者層をターゲットに販路開拓を行い、鳥取県梨の認知度とブランド力を高める取組を行う価値は十分にあると感じた。

本県においても、既に今年6月に鳥取市の農場の一つで、ベトナム向けの梨園地登録及び選果こん包施設登録が行われており、ベトナムへの梨の輸出に向けた取組が進められている。輸入検疫等の課題もあるが、県としても、引き続き、生産者や農業協同組合等と連携を取り、新規輸出事業者の拡大や、販路開拓に向けた支援に取り組む必要があると感じた。

また、訪れた日本食レストランでは、ベトナム人は、カニや肉も好きであり、プロモーションの仕方次第では、他の鳥取県産食品にもチャンスはあると伺った。しかし、まだベトナムの方々には鳥取の味をお試しいただく機会を設けることが十分にできていないのが現状である。

県としては、食品輸出商談会の開催など、県内事業者の輸出に向けた取組を支援しているところであるが、訪問先からは、現地での物産展の開催や、日本フェスティバルへの参加、日本食レストランで鳥取食材を活用したメニューを一定期間提供するプロジェクトなどの提案があった。

これについては、梨と同様に、輸出コストによる価格の上昇や輸出ロット等の課題があり、また、単発のイベントで終わらない工夫も必要になるが、まずは、「鳥取県」を売り出すツールとして、観光誘客とも連携した現地プロモーションの実施を検討する必要があると感じた。

次に、ベトナムからの観光誘客について、所感を述べる。

我が国を訪れるベトナム人は、経済成長や日越の友好な関係などを背景に、年々増加傾向にあり、2017年には、初めて30万人を突破し、前年比32%増となる308,900人と過去最高を記録した。2020年には、中間層以上が人口の30%以上を占めるとも言われており、旅行価格の低下を追い風として、今後も、都市部を中心に訪日旅行のターゲットは更に拡大すると見込まれている。

一方で、現在の訪問先としては、東京・大阪等のゴールデンルートが中心であり、今後も増加が期待されるベトナム人観光客をいかに鳥取県に呼び込むかが課題となっている。

今回、現地の方々との意見交換を行う中で、鳥取県には、ベトナム人観光客への訴求力が高いコンテンツを多数有していることを再認識した。

一つは、「名探偵コナン」である。実際に、日本語留学センターで学生に尋ねた際にも、教室のほとんどの学生が知っており、ベトナムでの認知度の高さを実感した。

二つ目は、「カニ」である。ベトナム人はシーフードを好むが、鳥取県で食べられるようなカニはならず、非常に驚かれるとのことであり、カニ味噌の甲羅焼きが人気メニューとなっているお店もあるとお伺いした。

三つ目は、「雪」である。技能実習生のための教育センターで学生とお話しをした際、まず尋ねられたのは、「鳥取県は寒いですか?」、「鳥取県には雪が降りますか?」といったことであった。ベトナムではごく一部の地域でしか雪が降らず、ほとんどのベトナム人は、雪を目にしたことがないとのことであり、雪への関心や興味が非常に高いことを実感した。また、ベトナム人は非常に花を好む国民性があるともお聞きしたところであり、例えば、「雪」と「桜」を同時に観ることができる初春の大山は、絶好の写真スポットとなり得ると感じた。

四つ目は、「温泉」である。最近、日本の温泉が健康に良いということが浸透しつつあり、温泉への興味も高まっているとのことであり、大浴場に入る習慣はあまりないということだが、足湯や部屋風呂といったものが喜ばれる可能性は高いと感じた。

こうした「名探偵コナン」、「カニ」、「雪」、「温泉」といったコンテンツを活用した、ベトナム人観光客に訴求力のある旅行商品を提案し、積極的に情報発信を行うことで、鳥取県を訪問先として選んでいただける可能性は十分にあると感じた。

鳥取県では、2017年11月に実施した相互チャーター便の就航をはじめ、現地の旅行博への出展、ベトナム人研修生による「ベトナム目線」でのプロモーションなど、ベトナムからの誘客促進を進めているところであり、この度の調査で訪問した日本政府観光局からも、鳥取県は、ベトナムからの誘客活動の先進県であると言っていた。

実際に、2017年11月に実施した県内初の相互チャーターを契機に、昨年のベトナムから本県への宿泊者数は、前年比270%増の540人と増加しているところであり、誘客施策の効果が表れていると言えるが、この流れを継続、拡大させるため、今後も引き続き、効果的な誘客活動を積極的に展開していく必要があると考える。

今回の調査で、ベトナム人観光客は、全体の7割が団体ツアーで動いており、インセンティブと呼ばれる企業の報奨旅行も含めると8割程度が団体で行動しているため、特定の趣味だけで訪問先が選ばれることが少ないこと、また、7割程度は日本に初めて来る方で、何か特定のものに目的を絞るというより、「日本」を訪れたいという意識の方が多くとお聞きした。

福島県では、栃木県、茨城県と連携し、東京を起点とした「ダイヤモンドルートジャパン」という取組を実施している。昨年2月に県内の民放4社等と作成した紹介動画が、2週間で1,100万回再生を超えるなど、ブランド化、話題化に成功している。

鳥取県でも、関西国際空港発着のツアーの定着に取り組んでいるところであるが、今年11月には、関西国際空港に、国産LCCのベトジェットエアが新たに就航したところであり、そうしたLCCの活用も含め、引き続き、関係自治体とも連携の上、広域観光ルートとしての魅力化や、情報発信に更に取り組む必要があると感じた。

また、今回の調査では、ベトナムは「ロコミ社会」であり、フェイスブック、家族、友人などからの訪日情報が、訪日への意欲喚起に大きく貢献するとお聞きした。

よって、実際に来ていただいた方々の「満足度」を高める努力も必要である。観光資源の磨き上げもその一つであるが、忘れてはならないのは、ベトナム人観光客が安心して訪れ、快適に滞在できる環境づくりである。

今回の調査で我々も感じたところであるが、異国の地では、やはり言葉の不安がある。よって、県内の案内標識、パンフレット、ホームページ等の多言語化を進めるのも、不安を取り除く方策の一つである。また、最近ではベトナムでも電子決済やクレジットカード決済などキャッシュレスの動きが高まっているともお聞きしたところであり、そうしたサービスの利便性を向上させる必要もある。

鳥取県を訪れたベトナム人観光客の方々に、鳥取県に来てよかった、また行きたいと思っていただけるよう、引き続き、受け入れ体制の点検・整備にも取り組む必要があると感じた。

今回の訪問を通じて、平均年齢30歳というベトナムの国のエネルギーと勢い、そして何よりも馴染みやすい国民性に触れることができ、ベトナムと本県とは、今後も幅広い分野で交流を深められる可能性が十分にあると感じた。

近年、ベトナムと日本の地方自治体間交流が活発化している。実際に、今回訪問した、在ホーチミン日本国総領事館の河上総領事からは、鳥取県と同じように砂丘があるビントゥワン省等との連携について提案をいただいたところであり、また、ベトナムの首都であるハノイ市人民委員会のタエン労働局長からも、人材の分野をはじめ、農業分野などで協力関係を築けないかという提案もいただいた。

ベトナムと本県との交流が広がりつつある中、本県でも、各施策を効果的に進めるとともに、新しい交流の可能性を探るため、自治体間連携の可能性についても、検討してみる価値はあると感じたところである。

今回の訪問を契機に、ベトナムと本県との交流がさらに広がることを期待し、訪問団一同、支援をしていきたい。

4 日程表

月 日	日 程		移 動	宿 泊
10月22日 (月)	14:30	米子鬼太郎空港 → 羽田空港	ANA1088	千葉県 成田市
	14:55	鳥取砂丘コナン空港 → 羽田空港	ANA1102	
	16:50	羽田空港 → 成田空港 (18:15成田空港着)	リムジンバス	
10月23日 (火)	9:30	成田空港→ホーチミン・タンソンニャット国際空港 (13:30着 時差-2時間)	VN0301	ベトナム ホーチミン市
	15:00	・在ホーチミン日本国総領事館 表敬	借上バス	
	16:00	・JETROホーチミン事務所 調査		
10月24日 (水)	9:00	・ベト・ラボ日本留学センター 調査	借上バス	ベトナム ハノイ市
	10:40	・AKURUHIスーパーマーケット 調査		
	12:20	・満マルホーチミン店 調査		
	14:00	ホーチミン・タンソンニャット国際空港 → ハノイ・ノイバイ国際空港 (17:40着)	VN0252便	
10月25日 (木)	9:00	・JIS人材開発株式会社 調査	借上バス	ベトナム ハノイ市
	11:15	・ホアン・ロン人材派遣株式会社 調査		
	14:00	・ハノイ市人民委員会 表敬		
	16:00	・JNTOハノイ事務所 調査		
	18:00	・ベトナム労働・傷病兵・社会問題省等との懇談会		
10月26日 (金)	8:25	ハノイ・ノイバイ国際空港 → 羽田空港 (15:05着)	VN0384	
	18:25	羽田空港→米子鬼太郎空港	ANA387	
	19:20	羽田空港→鳥取砂丘コナン空港	ANA299	

5 訪問先の概要

【平成30年10月23日(火)】

(1-1) 在ホーチミン日本国総領事館

〔対応者〕 在ホーチミン日本国総領事館 河上総領事、小川領事

総領事館を表敬訪問し、小川領事から最近のベトナム情勢、日本とベトナムとの交流状況などについて説明を受けた後、河上総領事とともに意見交換を行った。

【主な説明内容】

- 現在、ベトナムは経済発展が著しく、諸外国との結びつきも増えている。日越関係も非常に良好で、大変感謝している。
- 在ホーチミン総領事館の管轄内（ベトナム南部）にいる日本人は、約8,800人。ベトナム全体（約16,000人）の55%で、ハノイよりも多い。
- ホーチミン日本商工会議所の会員数は、今年10月時点で990社。毎月10社程度が新たに加盟されており、今年中に1,000社を超えると見込んでいる。商工会議所の規模では、上海（2,417社）、バンコク（1,749社）について第3位となっている。バンコクの企業は自力で十分にビジネスができるため商工会議所の会員となっている企業の割合が低い、日本の企業は商工会議所の会員になるメリットが大きく、7～8割の企

業が会員となっている。

- ベトナムから日本への留学者数は、2017年で約6万人。前年比15%増となっており、ここ数年で急増。中国に次いで第2位となっている。地域としては、南部よりも北部からの留学者が多い。一方で、日本に行けば稼げると言って留学生を騙すエージェントの存在が確認されている。日本国内の日本語学校や大学などの受け入れ側に、しっかりと学生たちの審査をしていただく必要があり、総領事館や入管で事前審査をするときにも、慎重な審査が求められている。悪質なエージェントを利用した学生は日本語がほとんどできないという傾向が見えてきており、ハノイでの取組として、査証審査の際に抜き打ちで日本語能力の検査を行うなどの対策を始めている。また、勉強するために日本に行った人の中にも、事前に聞いていた話との違いなどから、日本の社会にうまく適合できず、犯罪に走ってしまうケースがある。そうした不幸な事例をださないように、大使館や総領事館としても問題意識を持って取り組んでいる。
- 日本への技能実習生の数は、2017年6月時点で約10万人。前年比45%増と急増している。少し前までは中国が一位だったが、今はベトナムが1位。鳥取をはじめ、中国地方にも数多く行っている。技能実習生にも留学生と同じような問題が生じており、現在、外国人技能実習機構において、送り出し機関と受け入れ機関をしっかり監督し、不幸な事例を出さないように力を入れている。

技能実習制度は、実習により技能を学んでいただくための制度。是非、地方議会の皆様としても、この制度はあくまでも技能実習であり、ベトナムの国づくりに貢献するという考え方で接していただきたい。
- ベトナムと日本との地方自治体間の交流もここ数年で活発化しており、昨年、今年と多くの首長がベトナムを訪問している。目的は、人材の受け入れ、地元企業の進出、地元の製品の売り込みなど様々。ホーチミンやその他の省と、友好都市の提携や経済交流等の覚書を締結する自治体も増えている。
- ベトナムは政治機構が2つに分かれており、1つは共産党で、もう1つは市役所にあたる人民委員会。どの市どの省にも、共産党のトップと人民委員会のトップがいる。共産党のトップは書記といい、中央になると書記長になる。市役所にあたる人民委員会のトップは委員長という。ホーチミン市は、中央直轄の特別市。市長といえども県知事に相当するようなポスト。中央の組織に昇進する者もかなり多い。
- 日本の議会にあたるのは人民評議会。ホーチミン市の人民評議会の議長は、女性が就任することが多いと聞いている。そのあたりベトナムの中で、バランスを取るところがあり、国家副主席も女性の方。また、中央政府の中でも、北部、中部、南部の出身者のバランスが取られていることも多い。
- ホーチミン市周辺の主なODA案件としては、市の中心で工事している「ホーチミン都市鉄道1号線」の工事で、2020年に全線開通予定となっている。

【意見交換の概要】（○：訪問団、●：相手方）

- 商業・経済のホーチミン、官公庁のハノイというようなイメージがあるが、それ以外で特徴的なところは？
- まずは気候。ホーチミンは常夏だが、ハノイは冬になると寒く、ダウンジャケットを着ている人もいる。気候が影響するのか、気質や性格も違う部分がある。言葉の面でも、首都であるハノイの言葉を標準語とすれば、日本と同じように方言がある。

- 所得格差の実態は？
- 20数年前にもハノイにいたことがあるが、当時と比較するとハノイとホーチミンの格差は縮まっていると感じる。当時は、所得も人口もホーチミンの方が倍ぐらい多かったが、政府によるテコ入れの成果が徐々にバランスが取れてきている感じはする。中心部だけみると、それほど所得の格差は感じない。
- 子供たちの教育システムは？
- 日本と同じようなシステムだが、小学校5年、中学校4年、高等学校3年と年数に多少の違いがある。大学への進学率は、日本と比較するとまだ低い。
- 日本は急速な高齢化により人口減少局面に入っている。ベトナムはまだ若い国で、これから成長していくと思うが、課題としては、こういったことが挙げられるか。
- ホーチミンの一番の課題はインフラ整備。雨が降り続けば道路は冠水し、バイクも大渋滞となってしまう。
- 日本では大学まで進学する者が多いが、ベトナムではどうか。
- 大学への進学者は都市部に集中しており、地方ではまだ少ない。今、私立の学校が増えてきている状況にあるが、やはり学費が安い公立の学校を希望する人が多い。
- 私立の学校が増えているということは、高所得者が増えてきているということか。
- 特に都市部で増えてきている。昨年の一人当たりGRDP（地域内総生産）をみると、ベトナムの全国平均が2,385ドルに対し、ホーチミン市は5,500ドル。単純に比較すればホーチミン市は全国平均の倍の水準となっている。都市部の人たちの所得は確かに上がっている。ホーチミン市では、2020年の目標を9,800ドルとしており、さらに上を目指している。
- 地方の主な産業は？
- 農業などの第1次産業。
- 鳥取県の知名度が低いことが課題と考えているが？
- 去年、自治体を含め日本各地の企業・団体がPRを行う「フィールジャパン」というイベントに鳥取県も参加されていたが、その際、ベトナム語できちんと鳥取県のパンフレットを作成されていて感心した。そうした取組を続けることが重要。
また、既に9の自治体がホーチミン市と友好交流等を行っている。鳥取県もどこかベトナムの自治体と人材や経済交流等の覚書を締結してはどうか。その覚書等に基づき様々な取組を行うとともに、その取組をベトナムのマスコミ向けに広報することが非常に重要。我々も応援するので、是非そのような工夫をしていただきたい。
- ビントゥアン省のファンティエットという大きな町のとなりに、ムイネーという非常に風光明媚な港町があり、そのそばには砂丘がある。例えば砂丘つながりということで関係が築ければ、良い広報になると思う。



意見交換の様子（右の写真の左側が河上総領事、右側が小川領事）

（1-2）ジェットロホーチミン事務所

〔応対者〕 ジェットロホーチミン事務所 滝本所長

ベトナムの経済・産業の概況、日本との貿易状況などについて説明を受け、県産品の輸出可能性等について意見交換を行った。

【主な説明内容】

- ベトナムは南北で約2,000キロ離れており、南部と北部で気候が全く異なる。
- 気候の違いから、農業や水産業にも大きな違いがあり、北部は年間1回しか米が収穫できないが、南部は年間3回も収穫できる。よって、全国土の2割ぐらいの面積である南部でベトナム全体の6割の米が生産されている。また、南部のメコンデルタ地域では、ナマズやエビの大量養殖をしており、水産物の生産も6割が南部となっている。
- 海外からの企業進出も南部から始まった。既に製造業など、非常に多くの企業が進出しており、工業生産額も6割は南部。
- ベトナムには、58の省と5の市、計63の自治体があるが、自治体ごとの平均年収をみると、上位は南部のホーチミン市とその周辺の省に集中している。その他豊かなのは首都のあるハノイ市と、ハノイ市の近郊にあり、ハイフォンという港があるハイフォン市。
- ハノイが豊かな理由は、中央政府があるため。ベトナムには地方税・国税の区分はないが、各省・市が集めた税金の何割かをハノイに送金するシステムがあり、ホーチミン市の場合、税収の8割以上がハノイ市に送金される。もう一つは土地の使用料という大きな金の流れがある。ベトナム戦争が終わった時に、南部の土地は、戦争で活躍した北部の軍人の土地になった。よって、税金と並んで多額の土地使用料が北部に流れている。
- よって、ここ数年、新たなマーケットとしてベトナムを捉える動きがあるが、多くはハノイ市とホーチミン市に集中している。ハノイ市やホーチミン市から一歩外に出ると田園地帯で、それほど豊かな地域ではなく、なかなか日本の製品が売れない状況にある。
- 食品関係では、味の素やエースコックなどの企業が古くから進出している。エースコックは、今ではベトナムにおける即席麺のマーケットシェアの5割を占めており、ベトナムにも製麺工場を持っている。ハウス食品やキューピーなどの企業も進出しており、飲料関係では、キリン、サッポロビール、サントリーなどの企業が進出している。
- 日用品関係では、サロンパスの久光製薬、目薬のロート、日焼け止めや洗顔料などの花

王、繊維製品のグンゼやワコールなども進出している。関係してYKKのファスナー工場もある。

- 消費財関係の他、最近ではサービス業も進出している。代表的なのは小売業界で、イオン、高島屋、ファミリーマート、ミニストップなども進出している。
- 富裕層も大分増えているので、そういった方々向けのサービスも増えている。富裕者層向けのサービスとしては、学習塾、クリニックなど。
- ベトナムの貿易構造を分かり易く言えば、布を輸入して縫製して、洋服として輸出する、あるいは電子部品を輸入して、スマートフォンに組み立てて輸出する、といった産業構造となっており、輸入金額のほとんどは、素材や部品。そして、輸出のほとんどは、加工・組み立て製品となっている。
- 農林水産物・食品の輸入額は、それほど大きくない。日本にとっては海外への食品の輸出先として、ベトナムは10位以内には入っているが、総額としては395億円ほど。ホタテが一番の輸出品だったが、台風の被害で北海道からの出荷額が減り、現在、最大の輸出品は粉ミルクとなっている。
- ベトナム人は、子どもの教育や安全に対してお金をかける傾向があり、信頼性が高い日本食品に対する需要が高い。
- 日本から輸入している水産品等は、小売りというより、主に高級日本食レストランなどで使われている。一部に富裕層向けの高級小売店があるが、まだ少ない。

【意見交換の概要】（○：訪問団、●：相手方）

- ホーチミンの税収の8割以上をハノイに送金すると聞いたが、それは日本の交付税のようなかたちで地方へ配分されるのか？
- むしろ交付税分を留保して、残りを全部送金する仕組み。留保分は省によって異なるが、どこも半分以上を送金している。
- 外資は、どこの国が多いか？
- 最初に投資を始めたのは台湾だが、勢いが止まってきている。最近勢いがあるのは韓国で、業種としては、電気関係、スマートフォン、家電などの分野が多い。
ベトナムで事業をする際に難しいのは、土地の確保とライセンスの取得。土地の使用許可を取るのが大変で、ライセンスも商売をしているベトナム人を保護する観点から、人民委員会からの許可がなかなか出ないケースがある。
ただ、製造業の進出は、工業団地の土地を買ってくれて現金収入を得られるし、ベトナム人の雇用も提供されるため、非常に歓迎される。
その代わりに相当の額の税金を納めることになる。ベトナムの歳入内訳をみると、ベトナムには、全体で約60万社の企業があるが、1万社ぐらいしかない外国企業が国有企業なみの税金を納めており、それだけこの国の経済に貢献していると言える。
- 去年、ベトナム向けの梨の輸出が解禁となった。鳥取県も梨の産地であり、輸出に向かっているが、日本の果物は人気があるか？
- ベトナム人は梨を好むが、日本から輸入してくると価格が日本の2倍程度になるため、家庭用として購入するには少し高い。そのため、ベトナムでは、主に贈答用やお供え用として販売されている。ベトナムは国民の8割が仏教徒で、家に先祖の祭壇がある。そこに果物をお供えする習慣があり、季節によっては梨もお供えしている。贈答需要に関して言えば、9月の中秋の名月と2月の旧正月の前後で梨が売れる。

- ベトナム側の検疫のハードルが高いと聞いたが？
- 食品を扱われている方々は、確かに非常にナーバスになっている。
- 国内の物流システムは？
- 物流は、民間が行っており、日本の大手の運輸会社なども進出している。ただ、コールドチェーンはまだ不完全。
- インフラの整備が追いついていないと感じるが、整備はどこが行うのか？
- 電気に関しては国営企業が整備している。道路はそれぞれの自治体。国道であれば、国が整備する。ただ、国も国営企業も予算がないため十分ではなく、高速道路や空港ターミナルなど、主だったインフラはODA頼みとなっている。
- 将来、日本からベトナムに持ってきて伸びそうな分野は？
- 現在、素材から中間部品をつくる分野を工業化戦略という政策のもとで発展させようとしており、企業の誘致もしているため、今後、さらに集積されていくと思う。
また、家電などは、今、ほとんど輸出向けに作っているが、ベトナムの家電普及率は、冷蔵庫でも6割程度しかない。これからエアコン、電子レンジ、冷蔵庫といった家電が多く売れていくマーケットはある。
- 人口が1億人近くまで増えた要因は何か。
- 食糧を豊富に収穫できることが大きい。南部のメコンデルタ地域では、現金にあまり頼らない生活をしている人も多い。
- 平均年齢は？
- 今、ベトナムの平均年齢は30.8歳と、若い人ばかり。平均寿命は73.7歳で、日本と同様に女性のほうが長生きで、10歳ぐらい男性と差がある。
- ホーチミンのように急激に経済力をつけている都市は、周辺から人口がどんどん流入していると思うが、そのあたりの実態は？
- 統計資料としては、ホーチミン市の人口は約800万人とされているが、この数は住民票に登録してある数であり、実態としては1,300万人とも言われている。
人口のドーナツ化が始まっており、1区が市の中心だが、その外側の2区や3区の人口密度が高くなっている。現在、都市計画において、市の周辺部に雇用の場や、病院といったサービス機能を移そうとしている。
- 平均年齢が低く、人口流入も大きいと若者層の失業率が高くなっているのでは？
- 国全体の失業率は3~4%程度だが、今、大学を卒業して就職できない人が結構出ており、若年層の失業率は7%程度となっている。しかし、日本とは違い、ベトナムの大学生は、卒業までに就職先を決める人は3割程度で、多くが卒業してから就職活動をするという違いがあることを考慮する必要はある。
- ベトナム人は教育熱心か？
- 非常に教育熱心。昔から勉強をすれば立身出世が実現するということが習慣づいている。
- ハノイ工科大学など、ベトナムの学生は、日本ではなく、アメリカなどに留学することが多いか？
- 比較的日本に留学する方も多い。東大、京大をはじめ、慶応大などへも留学している。



滝本所長との意見交換の様子



滝本所長を囲んで

【平成30年10月24日（水）】

（2-1）ベト・ラボ日本留学センター

〔応対者〕 ベト・ラボ日本留学センター クーン社長

日本の大学・専門学校への進学を希望するベトナム人学生の日本語学習の様子を見学後、クーン社長から事業概要、日本留学希望者の動向等について説明を受け、意見交換を行った。

【主な説明内容】

- 2007年にベトナム国家大学ホーチミン市工科大学を卒業後、日本語を勉強し、東京で半導体関係の制御設計エンジニアとして働いていた。
- 東日本大震災が発生した際に、両親に心配をかけないように帰国したが、日本とベトナムの友好関係は今後も更に深まると考え、2011年に会社を設立した。
- 事業としては、日本語教室をはじめ、高度人材・留学生などの人材紹介など。スタッフは、ベトナム人が7名で、3名の日本人にもアルバイトで教師を務めていただいている。
- 最近、多くのベトナム人学生が日本へ行っているが、日本語が出来ない学生が多くて困っていると聞いているため、このコースを更に広げたいと思っている。去年の定員は20人だったが、今年は拡大して40人とした。
- ベトナム人のことはベトナム人が一番理解できると考えており、日本人とベトナム人の間に入って、お互いが理解できるようサポートしている。
- 現在、東京と群馬のホテルで働いている学生がいる。こちらの日本語学校で勉強して、大学卒業後に日本で就職した。もうすぐ3年を経過するが、活躍しており、ホテルからも良い評価をいただいている。
- 日本語コースでは、日本語能力試験のN5からN2のコースを行っている。N5は2ヶ月、N4は2ヶ月、N3は2ヶ月、N2は3ヶ月。一般的な日本語コースと比較すると期間が短い。毎日朝8時30分から午後4時まで学習して、夜も宿題をする。6ヶ月で約50%は、N3の資格を持って日本へ就職か留学をしている。残り50%はN4の資格だが、これも就職などに役立つ。会話も基礎ができているので、実際に日本に行って、日本人と会話することで上手になる。
- 大学の看護学部を卒業した学生が、沖縄の介護専門学校に行っている。日本側と提携して1年間、日本の日本語学校で勉強した後、介護専門学校に入学した。奨学金を日本のスポンサーから受け取っており、そこでバイトをしている。



日本語学習の様子



日本語教室の皆さんと

【意見交換の概要】（○：訪問団、●：相手方）

- 知っている町が、行きたい町ということにもなると考えるが、先ほど、日本で知っている町を学生に聞いたところ、東京、大阪、名古屋が多かった。やはり、鳥取県の知名度は低いのか？
- 自分は日本に住んでいたため東京や大阪以外にも良いところがあることを知っているが、ベトナム人は鳥取県のことをあまり知らない。
例えば、ホーチミン市では、毎年日本フェスティバルを開催しているため、その時に、ワンピースでも参加して、鳥取県の特産を紹介するとか、テレビ番組などで紹介すれば、次第に知名度が上がる。少し前まで誰も北海道のことを知らなかったが、最近、北海道のアイスクリームや果物、海産物などを知るようになり知名度が上がっている。
- 来年の春、主に日本の大学・専門学校への入学を希望するベトナム人学生のための日本語学校が米子で開校される予定だが、ベトナム人の学生に、東京ではなく、米子に来ていただくためには、どのようなインセンティブが必要となるか？
- 例えば、学費が安いこともインセンティブの一つになるが、学校としてのブランド力なども重要。ブランド力が高い学校であれば、学費が高くても行く。例えば、卒業したら100%進学できるとか、N2に合格できるといった魅力があれば、米子にも行くようになる。
- ベトナム人学生に人気のある大学は？
- もちろん東京大学などは人気だが誰でも行けるわけではないので、どちらかという学部・学科で選んでいる。男性だと技術系が多く、女性は文科系の大学にも行っている。鳥取県にも良い大学があると思うので、いろいろと紹介していただきたい。
- 日本にある日本語学校の多くは技能実習生を対象としているが、来春、米子に開校される予定の日本語学校は、日本の大学受験という随分ハードルが高いものに挑戦する。算数や理科などを教えながら、日本語を教えなければならない。
- 現在は日本語の壁が高いため、学生は英語系の大学を選んでいる。例えば、アメリカなどの大学であれば、英語のTOEICとかTOEFLなどの資格を取得してから行くが、日本の大学の場合、日本の日本語学校で学習してから受験する。そのため、1年や2年、日本語学校にお金をかけても、本当に大学に入学できるか皆が心配する。英語でも受験しやすくなるとか、日本側のサポートがもっとあれば、日本を選択する学生も増える。
また、例えば、米子の日本語学校も、そこで勉強すると、例えば鳥取の大学受験で合格

- しやすいとか、推薦などがあればよいと思う。
- 英語を選ぶ学生が多いということだが、比率で言うと？
 - 高校で習うのはほぼ英語なので、90%は英語。残り10%は英語をベースとしながら、フランス語や中国語など、もう1つの言語を選ぶ。中国語は、ハノイで多いが、ホーチミンではあまり選ばれない。最近では、日本語や韓国語を習わせている高校もある。
 - 介護留学などに奨学金が出ているようだが、奨学金を出しているのは？
 - 民間の企業や介護施設など。1～2年間日本語を学習後、専門学校で2年間学習し、それから正社員となって3年～5年で返す。介護施設は人材を確保できるし、学生はお金がなくても日本へ行けるという仕組み。
 - 一度是非、鳥取県に来て欲しい。また、鳥取県の魅力をいろいろとPRするので、是非とも学生にもご紹介いただきたい。
 - 来年の春にでも是非行かせていただく。そして、ベトナムでも是非、毎年1回程度、物産フェアなど、鳥取まつりのようなかたちで開催して欲しい。ベトナムの人に実際に鳥取のものを食べてもらえば、少しずつ浸透していくはず。



クーン社長との意見交換の様子



センターの前でクーン社長と

(2-2) AKURUHI (アクルヒ) スーパーマーケット

〔応対者〕 AKURUHI グループ ユイCEO、坂下セールス担当

スーパーマーケットを視察後、日本産食品の輸入・販売等の状況について説明を受けるとともに、県産品の輸出可能性等について意見交換を行った。

【主な説明内容】

- 当社は、20年前の1998年に設立。当時、タン会長は20代だったが、今後日本食が更に発展することに着目して、日本食品の卸売りをを行う小さな店を始めた。以後20年、更に日本食を広めてベトナムの人に提供したいという発想のもと、頑張ってきた。現在は、商社からコンテナで仕入れている。
- 現在は、約500名の従業員がいる。資本金は500億ドン(日本円で約2億5千万円)。
- 事業内容は、日本食品・飲料の卸売りのほか、スーパーマーケット4店舗、和風レストラン8店舗の経営をしている。ここから車で1時間程度のところに低温倉庫を所有しており、そこにコンテナで食材を降ろすかたちを取っている。
- その他、人材派遣などの事業も行っているが、売り上げの90%は卸売り。

【意見交換の概要】(○：訪問団、●：相手方)

- 日本食では、どういうものが人気か。
- お寿司や焼肉、うどん、ラーメンなどが人気。
- スーパーマーケットを視察させていただいた際、冷凍食品などを含め日本食品が多く陳列されていたが、よく売れるか？
- 売れる。日本の食品は安全・安心ということで人気がある。
- ベトナムも米の産地だが、日本からの輸入米も売れるか？
- そう多くは売れない。日本からも輸入しているが、コシヒカリなどはベトナムでも作っていて、1年で3回収穫できる。
- 20年前に日本の食材に注目したきっかけは？
- ホーチミンの焼肉レストランで会長が働いていたことがあり、その時に、和牛をはじめ、日本食材に魅力を感じたことがきっかけと聞いている。
- 商社から仕入れているということだが、品物選びは商社におまかせか。
- 肉であれば、A4とかA5とかランクを指定した上で、サンプルをみて選んでいる。
- 鳥取県の産品をこちらで取り扱っていただきたい場合は？
- 基本は、商社を通じてサンプルを送っていただくことになる。特に、食品は税関の問題もあり、単純には送れないと思うので、商社に他の荷物と一緒に送ってもらうほうが良いと思う。
- 品目にもよるが、日本のどこで生産されたのかというより、メイドインジャパンとして購入されている商品の方が多いのでは？先ほどスーパーで数多く販売されていた新潟のお酒みたいなものであれば良いが、小ロットのものを売り込むのは難しいと思うが。
- 例えば、ここでは味噌も扱っているが、一部のお客様から産地を指定されても、その一部のお客様のために少しだけ仕入れることは出来ない。商品によっては銘柄を指定して大量に仕入れることもできるが。
- 鳥取県は梨とカニが有名だが、他におすすめはあるか？
- 牛肉。去年、全国の大会で、肉質日本一を取った。

- 知らなかったが、それはすごい。
- 和牛は出回っているか。
- 当社のレストランでは、値段は高いが和牛を使っている。
- 梨も売れるか？昨日、ホーチミンの高島屋で茨城県の梨が売られていたが。
- 店に出すことはあるが、ベトナム人が誰でも買える値段ではないので、日本のように大量に販売することは難しい。



スーパーマーケットの外観



意見交換の様子



日本食品等の販売状況

(2-3) 満マルホーチミン店

【応対者】 EATFACTORY VIETNAM 秀島代表、山口課長

日本食レストランの運営状況、ベトナムの食嗜好、食材の活用状況等について説明を受け、県食材の輸出可能性等について意見交換を行った。

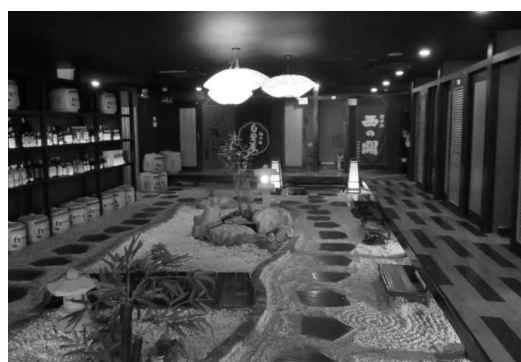
【意見交換の概要】 (○：訪問団、●：相手方)

- 食材はベトナム産のものを使用しているか。
- 魚や野菜など、基本は地場のものを使用している。米もベトナム産の日本米。魚など、一部輸入食材も使っているが、日本で輸入しているものと品質的には同じ。
- ベトナム人の方にも多く来ていただいているか？
- 連日多くの方に来ていただいている。当初の狙いどおり、比率でいうと約7割がベトナム人客。
- 日本のメニューとの差は？味などはアレンジをしているか。

- 味はベトナムの方の好みに近づけている。ただ、和食を広めたいという思いがあるので、そのあたりどこで折り合いをつけるかを日々考えながら、進化をさせている。
 - 全般的には、塩辛いものが苦手で、薄味が好き。ただ、個人差が激しいのでフォーのお店のように、後で自分好みに調味料を加えられるのが理想。
 - 食品の販路開拓に関していうと、こちらで成功しているのは、日本で作ったものを輸出しているところではなく、現地で工場をつくり、現地の研究者が現地の好みを反映させた商品開発をしているところ。評価するお客様の基準が違うので、いかに日本の味を再現したところで、成功は約束されないというのが一つの大原則。やはり味も見た目も値段も、現地のお客様に合わせる必要がある。
- 小ロットでの輸出は難しいか？
- それはやり方次第。しかし、最初は、県も支援して認知度を高める必要がある。現状では、お試しいただくところまで到達していない。
 - 基本的に、ベトナム人は肉好きだし、カニ好きだし、お酒も飲むので、鳥取県産品にもチャンスはある。また、海外で売れている商品が、必ずしも日本で一番有名な商品とは限らない。
 - 例えば、プロジェクトとして、鳥取県産の食材を活用するレストランを成功させて、ベトナムの方に鳥取のブランドに馴染んでもらい、それから個別に食材を売っていくというのはどうか。
- 食材以外で、有望な輸出品目や産業は？
- 他の産業も伸びしろしかない。本当にこれからの国であり、ベトナムの方に受け入れてもらえるものさえ完成できれば、いくらでもビジネスチャンスはある。
- こちらでは、ベトナムの方が調理されているか？
- すべてベトナム人。ベトナムの方は器用で、技術を身に付けたら相当な速度で発展させていく。料理の技術でも、例えば日本人でも時間を要するような寿司を握る技術も、思った以上に早く習得される。
- ベトナムの方にとって、日本のイメージは？
- 面接する際、何故当店で働きたいかを聞くと、「日本はルールがきちんとしている」、「モラルとマナーが進んでいる」という印象で、それを身に付けたいという方が多い。
- 店舗運営は、日本と同じやり方？
- 100%日本式ではできない。監督は日本人だが、選手はベトナム人。ベトナム人のスタッフが生き生きと働けるような仕組みでなければ運営出来ない。
- 例えば、2か月間、鳥取県の食材を使ったメニューをベトナムのお店で出して、その間に来ていただいたお客さんの中で、1〜2名鳥取旅行が当たるといったことはできないか。それで鳥取に行って、いろいろ食べていただき、その映像を撮らせてもらって、ベトナムのお店でその映像を流す。それがTV番組などで取り上げられれば、話題性は大きい。
- 例えば、ベトナム人はカニが大好きである。カニみその甲羅焼きは、当店では扱っていないが、非常に人気があると聞く。食べているところを自慢したいので写真をとって、自分のフェイスブックやインスタグラムで友達にアピールしたりしている。



秀島代表、山口課長と



レストランの内観

【平成30年10月25日（木）】

（3-1）J I S（ジェイアイエス）人材開発株式会社

〔対応者〕 J I S（ジェイアイエス）人材開発株式会社 ゴック社長及び役員、スキルウェイ協同組合 加藤代表理事、鳥取市経済観光部 大野次長

企業概要、日本語教育の状況、ベトナム人高度人材の動向等について説明を受け、意見交換を行った後、ベトナム人学生の日本語学習風景と介護留学希望者がトレーニングを行う医療センターを視察した。

【主な説明内容】

- 会社は2017年5月に設立。スタッフは30人で、本社は、ベトナム公衆衛生大学内にある。介護留学をはじめ、技術者の派遣、日本で就職のための留学などを支援している。
- 全寮制で、学生は毎朝ラジオ体操をしている。毎日8時から夕方5時まで日本語の授業を行っており、夜もきちんと予習・復習をしている。大学の中に、リハビリセンターがあり、介護留学を目指す学生が、そこでトレーニングを行っている。
- 日本語はN3までのクラスがあり、課外活動として、サッカーやボウリングをしたり、日本のスーパーに行ったりもしている。
- 現在、日本の外国人材の中で、一番増えているのは技能実習。人数的にはベトナム人が1位。理由としては、文化的、性格的に日本と親和性が高いことがある。実際に今回の視察で感じられたかと思うが、非常に日本人に馴染みやすい国民性で、実際に企業のお話を伺っても、ベトナム人の評価は高い。
- また、日本で就職した外国人留学生の人数は、ベトナムが2位。
- 少し数字は古いが、2016年度の全国調査では、日本で外国人を雇用している企業は46%。雇用を検討している企業を含めると、約70%の企業が、雇用しているか、雇用をしたいという意向があるという状況。
- 鳥取県内では、製造業を中心に外国人材の活用を検討されている企業が多いと聞いている。加えて、サービス業、特に旅館とかホテル業といった業種からのニーズが大きくなっている。
- 外国人材の活用のメリットは、海外展開のため、その国の文化や商習慣等の情報を得ることができることや、日本人にはない現地のネットワークを活用できるということが挙げられている。

- 外国人を受け入れるにあたって、様々な課題も出てきている。日本企業に対する不満としては、昇進する見込みが感じられないとか、給与が低いといったものが多い。
- 一生懸命取り組んでいるのにもかかわらず、なかなか、成績に応じた評価を得られないところに不満を持つ外国人材が多い。企業からは、ベトナム人材は非常に優秀だと伺っている。長く日本で活躍できる環境が重要。
- 現在、鳥取市の学校法人矢谷学園、スキルウェイ協同組合と連携して、鳥取市でベトナム人高度人材の受け入れをしていただく準備をしている。スキームとしては、あらかじめ、鳥取県内の企業をはじめ、日本企業から求人をもらって就職を内定させた上で、日本に留学していただくというのが一番大きなポイント。
- 通常、日本企業への就職を目指すベトナム人学生は、自費で日本の日本語学校や大学に留学し、そこから就職を探して、日本企業へ就職するパターンが多いが、今回の取組は、日本に行く前から就職が内定していることから、学生にとって、日本に行ったものの就職が出来ないというリスクが無くなる。
- 高度人材は、「技術・人文知識・国際業務」といった業種に合致すれば日本企業への就職は可能だが、実際には、日本語がままならない中で、いきなり日本企業へ就職しても、コミュニケーションがうまくとれず、長続きしない例が多くある。
- 今回のスキームでは、企業に入る前に1年間、日本語学校に入って、日本語はもちろん、日本文化、ビジネスマナーなどを学んでいただくことにしており、企業への就職後、スムーズに活躍いただけると思っている。
- 学費は、企業に半分負担していただくことにしているが、企業の選択によっては、全額を負担することが可能なスキームを考えている。
- ベトナムには、本当は日本企業で就職したいと思っているが、金銭的な理由で日本に行けない高度人材が多くいる。そういった方には是非このスキームを活用していただきたい。
- 鳥取県内の企業をはじめ幅広くPRしており、県外の大手企業などからも、是非活用したいという話がきている。



ゴック社長及びJISの皆様と



意見交換の様子

【意見交換の概要】（○：訪問団、●：相手方）

- 先日、ベト・ラボ日本留学センターを視察したが、生徒のほとんどが東京などへの留学を希望していた。鳥取を選んでくれる可能性はあるか？
- ベトナム人は鳥取県に行きたくないのではなく、ほとんど知らないということ。説明すれば、鳥取県を希望する学生もいると思う。
- このスキームは、東京や大阪で就職するベトナム人学生が利用することもあるか？
- 事業上、ある程度の規模が必要となるため、毎年100人を定員とする予定。本来であれば、県内企業の人材確保のための取組であり、100人を、県内の求人ですべて埋めたいというのが本音だが、県外企業からの求人も受け付けることにしている。
- 学費の半分は企業が負担するとのことだが、それが、東京などではなく、鳥取が選ばれるインセンティブの一つになると考えてよいか？
- そのとおり。
- 先日、クロアチアのセーリングチームに境港市に来ていただき、地元自治体との交流会を行ったが、その際、SNSで境港市は良いところだと世界に向けて発信してくれた。
御説明いただいた取組により、早ければ、来年からベトナムの高度人材の受け入れが開始されることになるが、その方たちに、どれだけ鳥取県に良い印象を持っていただくかが重要。悪い評判が一度SNSなどで広まってしまったら、次の年から来てもらえなくなってしまうかもしれない。行政と市民が協力して受け入れ体制を整えておく必要がある。行政は、商工など特定の部局だけではなく、部局横断的な対応が必要。また、市民も意識を変えていく必要がある。
- おっしゃるとおり。生活環境の改善を含め、多文化共生の社会づくりに取り組む必要があると思う。
- 対象業種は？
- 製造業やIT関連をはじめ、介護、建築、宿泊など、幅広い業種で人材不足が起こっているため、特定の業種に絞る予定はない。
- 学費の負担は、中小企業にとっては重くないか？
- 同じ中小企業でも、都市部の企業からは非常に安いと言われるが、鳥取県内の中小企業からはやはり高いと言われる。しかし、中小企業だからこそ、このスキームを使う価値があると思っている。大企業は資金があるため、独自のルートで直接ベトナムに来て人材を確保することができるが、中小企業は難しい。そこをお手伝いするというのが今回のスキーム。人材の確保は、県内だけの競争ではなく、日本全国、そして世界との競争になっており、その競争に勝つためには、一定のコストがかかるということを、鳥取県内の企業にも理解いただきたいと思っている。
- まだまだ、外国人労働者に単純労働をしてもらおうという考え方が蔓延しているのではないかと思う。高度外国人材という発想に切り替えないといけない。
- そのとおり。このスキームは大学の新卒採用。電気関係の求人であれば、ベトナムの工学部に求人をだす。鳥取の企業が、東京、大阪の大学に求人を出してもなかなか来てくれない。そこで、発想を転換し、海外から優秀な人材に来ていただくもの。
- 県内企業のメリットがどれだけあるかを考えないといけないが、お話を聞いていると、結局、資金力のある県外企業の方に多く就職してしまい、鳥取県が、単なる中継地になってしまう恐れはないか。
- 一番重要だと思うのは、このスキームを鳥取県内で始めようとしていること。就職先を

選ぶ学生にとってもそれが一つのインセンティブになると思うし、受け入れる企業にとっても、身近なところにこの仕組みがあることで活用もしやすく、内定した留学生を、近くで見守ることができる。

また、企業誘致の一つの武器になり得ると考えている。今、企業が進出を決める上で大きなポイントになっているのは、労働力を確保できるかどうかということ。企業誘致のためにも、人材を確保する仕組みが必要となる。



教育センターと介護実習生が訓練を行う医療センターの視察

(3-2) ホアン・ロン人材派遣株式会社

〔対応者〕 ホアン・ロン人材派遣株式会社 ヴオン副社長、阿部顧問他

技能実習生の日本語学習の様子を視察後、企業概要、技能実習生の教育状況、日本への送り出しの状況等について説明を受け、意見交換を行った。

【主な説明内容】

- 1999年の設立以降、台湾や中東、アフリカなどへ、多くのベトナム人技能実習生を送り出している。また、2012年から、日本へ技能実習生を送る事業をスタートさせており、これまでに3,000名程度日本へ送り出している。
- 既に、技能実習を終えて帰国している実習生も多くおり、当社の日本語を話すスタッフの多くは元技能実習生。
- 教育センターは2つあり、こちらの第2センターは全寮制で、既に日本企業からの内定をもらっている生徒達が学習している。

- 1クラス約20名で学習しており、こちらの第2センターには、約1,000名の生徒がいる。
- 鳥取県に行く予定の生徒がいるクラスもある。職種は、溶接、鋳造、機械加工など。教育期間は、今年9月から来年の3月まで。2人の教師が一つのクラスを担当している。
- 日本語だけではなく、日本の生活、文化等の教育も行っている。また、同じようなミスをしないうちに、日本で先輩がどのような失敗をしたかを生徒にフィードバックしている。
- 教師は第2センターだけで72名。生徒の成績は、先生の評価にもつながっているので、自分のクラスに成績の低い生徒がいれば、自主的に補習をしたりもしている。
- 今、ベトナムの中で流行のビジネスになってしまっている部分があり、中には、学生を騙したりするような、悪質な送り出し機関もあると聞いている。
- 我々は、日本企業とのマッチングの際は、採用を希望する企業に日本から自費で来ていただいて、試験や面接をしていただいている。例えば、5名の採用希望がある場合は、3倍の15人程度の候補者の中から選考していただいている。
- 事前に、どこでどのような仕事をするか、写真やビデオなどで生徒に紹介して、生徒にしっかりと理解していただくようにしている。
- 面接合格後には、受け入れ企業に家庭訪問に行ってもらっており、ご家族と面談いただくことで、しっかりとした絆を構築している。そうした取組により問題の発生率を低減できると考えている。
- 去年、技能実習制度に介護が追加された。ベトナムでは現在、13の送り出し機関しか国のライセンスを取っていないが、当社はその中の一つであり、介護関係の技能実習生も開始している。

【意見交換の概要】（○：訪問団、●：相手方）

- 生徒はベトナム全土から来ているか？
- 北部がメインだが、中部や南部から来た生徒もいる。
- 高卒者が多いか？
- 高卒者が多いが、大卒者もいる。
- 成績の悪い子のフォローアップは？
- 定期的に試験を行っているが、連続で不合格をするような場合は、クラスを変えてもう1回勉強をしてもらうこともある。
- 鳥取県をはじめ、技能実習生を受け入れている日本側に対しての要望はないか。
- 鳥取にも、多くの技能実習生をお送りしているが、受け入れ団体の協力もあり、良い環境で実習ができていると聞いている。それで、次に行く技能実習生も安心できる。
- 今、技能実習を希望する若者が増えている。今後も多くの技能実習生をお送りしたいと考えているので、引き続き、協力をお願いしたい。
- ベトナムと日本の関係も非常に良い。技能実習制度を通じて、ベトナムと日本の関係がより深まることを願っている。
- 先ほど教室を見学させていただいた際、倉吉市に行く予定の生徒がいた。しかし、実際のところ、東京や大阪などの大都市に魅力を感じる若者の方が多いと思うが？
- どちらかという働く環境が良い会社であれば、地方でも行きたいと考えている。地方のほうが生活費を抑えられるということもある。
- 実際に都市部と地方では、技能実習生の賃金に差があるか？

- 最低賃金を一つの目安にする企業が多いので、必ずしも、鳥取の企業が低いということではない。例えば、技能実習生の働きに応じて賃金を上げていただいたり、1年目、2年目、3年目で、きちんと賃金を上げてくれたりする企業もあり、そういった違いもある。会社として、帰国した技能実習生の就職のフォローもしているが、日本にいる間の賃金の差が少々あっても、日本語や技術の習得がきちんとできて、帰国後に良い仕事に就けるほうが良いという考えもある。遊びに行くわけではないので、逆に都市部を敬遠する者もいる。



教育センターの外観



学生寮



職員室



意見交換の様子

【学生との意見交換】

(○：訪問団、●：相手方)

- 鳥取県は今、寒いですか？
- 今の時期は、寒くないです。
- 鳥取県は、雪がありますか？
- 冬になると、雪が積もって、スキーも出来ます。

是非、鳥取に雪を見に来てください。スキーをしてください。雪を見ながら温泉に入って、カニを食べてください。

- 鳥取県はどんなところですか？
- 鳥取県には海があって、山があって、きれいな川があって、とても食べ物がおいしいところです。
- 鳥取県はどんな気候ですか？
- 日本には、春、夏、秋、冬の四季があって、今は秋です。暑くも寒くもなく、過ごしやすい季節です。
- 鳥取県は、どんな食べ物がおいしいですか。
- 梨、スイカ、カニ、魚、鳥取牛。どれもおいしい。このクラスに鳥取県に行く予定の方が9名いるとお伺いしました。良いところなので是非、鳥取県に来てください。



(3-3) ハノイ市人民委員会

〔応対者〕ハノイ市人民委員会 タエン労働局長、ディン外務局長他

ハノイ市人民委員会を表敬訪問し、鳥取県とベトナムとの更なる交流促進について、意見交換を行った。

【意見交換の概要】(○：訪問団、●：相手方)

- ハノイ市を代表して、本日、皆様の面談を受けさせていただけることを大変うれしく思う。ハノイの人口は740万人だが、仕事として来る方などを含めると、実際には、1,000万人程度で、そのうち、労働者人口は600万人。近年、技能実習生として、日本をはじめ海外で活躍する人も多い。鳥取県には主にどのような産業があるか？
- メインは、農業、漁業などの第1次産業。
- ハノイ市では、現在、世界の100の都市と友好関係を結んでいるが、その中で最も交流活動を行っているのは日本の各地方の皆様。このような友好関係が築けているのも、文化など、日本とベトナムの共通点が多いためだと思う。

外国への直接投資の分野においても、日本の企業もハノイ市に多く進出しており、今、企業数においても、投資した金額であっても、日本が一番大きな投資家となっている。

今、ハノイ市では、東京及び福岡県と、姉妹都市として連携協定を締結している。また、経済分野での連携協定についても、埼玉県と横浜市と締結しており、来月には、神奈川フェスティバルという催しも開催される予定。そして、ハノイ市では、毎年3月、ベトナムで最も大きな「さくらフェスティバル」を開催している。

ハノイ市と鳥取県も、今後様々な交流活動が考えられる。技能実習生の送り出し、受け入れだけではなく、例えば、農業分野での協力関係なども考えられる。

ハノイ市は都市化が進んでいるが、3分の2は農地であり、人口の3分の2も農家。現在、ハイテクを活用した農業の促進を考えており、日本の持っている技術をベトナムで活用したいと考えている。来月、埼玉県知事が訪問され、農業関係の協力に関する連携協定を締結する予定。

鳥取県には、ベトナム人技能実習生を多く受け入れていただいているが、技能実習生だけでなく、例えば、農業関係で何か協力関係ができないか是非ご検討いただきたい。

- 日本の果物は高級だが非常においしい。昨年、梨の輸入が解禁されたと同っているが、ベトナムの方に高級な果物が受け入れられる環境はあるか。
- 現在、ハノイでは、日本以外にもヨーロッパやアメリカから、高級な果物、その他食料品などを輸入している。しかし、一般の市民はまだ所得が低く、なかなか購入できない。主に高級レストランやホテル、それに一部の富裕層が購入していると聞いている。
- 鳥取県は、日本の中でも有数の梨の産地なので、是非、ベトナムの方にも食べていただきたい。
- ハノイでは、輸入果物を年間数千トン消費している。もし機会があれば、是非すばらしい梨を紹介いただきたい。
- 御承知のとおり、日本は地震が多い。特に東京をはじめ太平洋側の都市は、地震のリスクが非常に高いと言われており、そのリスク分散という観点から、鳥取県を含め、日本海側の都市への企業進出が進んでいる。
そこで、一番問題となっているのが人材の確保であり、日本で高齢化が進んでいく中、高度人材を含め、ベトナムの皆様にも期待しているところ。
- 同時に、現在、日本では、悪質な企業やブローカーの問題をはじめ、不法就労、日本語能力の問題など、様々な問題が指摘されている。今回、視察をさせていただいた日本語学校や送り出し機関は、日本語教育などしっかりと対応いただいていたが、残念ながら、それができていないところがあるのも事実であり、非常に懸念している。そうした問題に対する認識と今後の取組について、御意見があればいただきたい。
- 技能実習生の送り出しは、地方レベルではなく、中央の労働省が窓口となっている。高度技術者をはじめ、看護、介護など、あらゆる人材を送り出している。教育機関も300以上存在し、工業、農業、サービスなど、あらゆる分野の教育を行っており、高度技術者も年間10万人程度育成している。
送り出し機関は、ハノイ市にも200以上あり、我々としてもハノイの労働者の派遣に非常に関心を寄せている。技能実習生の派遣に関しては、ハノイ市のレベルでは、特に今まで、日本の県庁と連携協定を結ぶことはなかったが、できれば鳥取県と人材の分野で協力したいと考えている。ハノイと連携協定を結ぶ場合は、我々は中央機関である労働省の承認を受ける必要がある。
- 高度人材をはじめ、我が県としては、ベトナムからの人材の受け入れについて、期待が大なるものがある。先ほどのお話の中で、ベトナムの農業分野についてお話があった。鳥

取県は農業県だが、高齢化により農業を支える人口が極端に減りつつある。その部分での提携が今後進められないかと思うが、御見解をお伺いしたい。

- 先ほど申し上げたとおり、ハノイ市は3分の2が農家であり、今、ハイテクを活用した農業を促進している。日本の農業を理解し、ハノイの農業を促進するための人材が必要であり、もし何か協力関係が築ければ、ハノイにとってもありがたい。
- 鳥取県には、鳥取大学があり、そこには農学部がある。こちらの農業にとっても有効な学部だと思う。また、農業経営についても、法人化や大規模化、生産性の向上に取り組んでいる。是非、農業分野での人材派遣もお考えいただきたい。
- ハノイ市には、ハノイ農業大学をはじめ、農業関係の短期大学や専門学校が10校ぐらいあり、年間数万人を育成している。そうした学生が、卒業して日本で活躍できれば、本人たちにとっても望ましい。
- 本日の訪問を機に、今後鳥取県とハノイ市との交流が更に深まることを期待している。
- 本日は、鳥取県の議員の皆様と経済、労働など幅広い分野の意見交換ができて大変うれしく思う。鳥取県と同様に、ハノイ市も農業を重要な産業としているので、農業分野での協力関係を是非促進していただきたい。本日の意見交換の内容は、市長にも御報告させていただく。次にハノイ市を訪問いただく機会があれば、本日の意見交換をもとに、具体的な提案をしていただきたい。



意見交換の様子



タエン労働局長、ディン外務局長をはじめ皆様と

(3-4) JNTO (日本政府観光局) ハノイ事務所

〔対応者〕 JNTOハノイ事務所 高橋所長

ベトナムにおける訪日観光客の動向、訪日誘客活動の現状と課題、鳥取県への観光誘客の方策などについて説明を受け、意見交換を行った。

【主な説明内容】

- ベトナムは、急速に変化しており、日本の60年代～80年代に起こっていたようなことが、一気に起きている。訪日旅行市場だけではなく、社会全体が非常に早いスピードで変化している。おそらく、1年後にベトナムを訪問されると、全然違う状況になっている。
- 訪日旅行全体としては、非常に堅調な成長を続けている。一つは、6日間で2,000ドル程度だったツアーが、今は4日間で1,000ドル程度まで安くなっていることがある。そして、チャーター便、インセンティブ旅行、個人旅行など選択肢が増えてきている。
- ベトナム人の海外旅行ニーズに合致した国として、日本が選ばれる理由が非常に多くなっている。それを底支えているのが、日越の非常に友好的な関係。
- 海外旅行はベトナム人にとって比較的新しいレジャー。今はベトナム国内で旅行するより、ビザが不要なASEAN諸国を旅行した方が安い状況にあり、海外旅行が一般的になってきている。
- あるクレジット会社の調査では、ベトナム人には、短い旅程で、頻繁に旅行に行くという特徴があることが分かっている。ベトナムには連休があまりないことが関係している。また、本当に買い物好き。日本への旅行は、韓国や台湾、東南アジアと比べると高いが、「やや安・近・短」、そしてショッピングという魅力的な要素のある日本が、理想的な旅行先になってきている。
- 外国渡航先として、日本はトップ10に入ってきている。現在、競合地域とみているのは、韓国と台湾。韓国、台湾と比べると、多少価格が高いが、ありがたいことに、ベトナムの方は、日本への旅行にプレミアム感を持っていただいております、多少高くても当然といったところもある。
- 日本への観光客も顕著に増加しており、政府が行っている訪日観光客の誘客活動であるビジットジャパン対象の市場で唯一、70か月以上連続で対前年同月の記録を更新し続けている。
- ベトナムはまだビザが残っていることもあり、タイ等と比べると観光客の割合が低い。ただ、近年の増加率をみると、今後、東南アジアの市場の中で、最も成長する可能性があると思っている。ビザの部分がクリアになれば、現在のタイのように今週末に日本に行こうということになり得る。
- かなり訪日旅行が一般的になってきており、富裕層は既に一度は日本へ行っている。個人のリピーターをいかに獲得するかが重要。ただ、欧米に目が向いている状況であり、欧米との競合になっている。
- 旅行価格が非常に下がってきている。2020年には、人口の30%以上が中間層以上になると言われているので、今後、大都市であるハノイ、ホーチミン、ダナンといったところの共働き家庭のほとんどが訪日旅行のターゲットとなる。
- 訪日情報の情報源は、一つは旅行代理店。もう一つはフェイスブック、友達、家族、知人などからの口コミ。ベトナムは口コミ社会。
- まだ7割程度がパッケージツアーで動いており、インセンティブという企業の報奨旅行

を含めると8割近くがまだ団体旅行で動いている。

- 知名度としては、東京、大阪、京都、富士山以外の名称は、ほとんど知られていない状況。チャーター便が売れている一つの理由は、特定の地域に行くというより、日本に行くというイメージで商品を購入していることが多いため。知名度を上げるのは大事なことだが、あまりそれに囚われすぎないほうが良い。
- 鳥取県が誘客活動の先進県であることに間違いはない。チャーター便は非常に有効な誘客手段だが、費用的に続けられるものではない。鳥取県は、主にHISと組んで、関西への格安航空会社を活用した取組を着実にやっているし、今も旅行会社からベトナム人研修生が鳥取へ行っている。そうした地道な取組が、1年で2倍以上という数字に表れている。
- 今後は、是非、差別化した情報発信をベトナム語でしていただきたい。例えば、ベトナム人はシーフードが好きだが、鳥取県で食べるようなカニはベトナムにはないので、非常に驚かれる。その他、花や雪の情報、そして、ベトナム人研修生の方の実際の暮らしぶりをしっかり発信していただくことで、他の自治体と確実に差別化ができると考えている。
- ベトナム人は、ビュッフェ、鍋、フルーツが好き。ビュッフェは定番だが、鍋も好きで、日本のフルーツも大好き。梨も入ってきている。
- ベトナム人の旅行の大きな目的として、ソーシャルメディアに自分の体験をあげてアピールしたいというのがある。非常に花が好きで国民性であるため、花の写真が撮れると良い。また、最近、体験ものが流行っているが、ちょっぴり体験できて写真撮影ができれば十分。写真スポットをしっかりとルートの中で決めて、十分な撮影時間をとることが非常に重要。
- 企業のベトナム進出ブームが続いており、日本の生活スタイルも日常に取り入れ始めているので、日本とベトナムのビジネスは、まだまだ活性化していく。
- その他、受け入れ態勢としては、最近ではベトナムでもキャッシュレスの動きが高まっているので、キャッシュレスが広がると個人のお客様にたくさん来ていただける下地ができる。また、ベトナム人を雇用して活用すること。
- ベトナム市場に特化した取組を、地道にしっかりとやっていただくことが重要。

【意見交換の概要】（○：訪問団、●：相手方）

- 大阪からアクセスできるレベルで雪が見られる地域としては、鳥取県は数本の指に入る。ニーズとしては、立派なスキー場に行きたいというより、雪と一緒に写真が撮りたいということだと理解して良いか。
- ベトナム人のほとんどは雪を目にしたことがないので、スキーを目的に行くということはない。例えば、1時間自由に雪遊びをしてくださいと言っても、寒くてそこまで楽しめないと思うので、おっしゃるように雪と一緒に写真が撮れれば十分。
- 鳥取県では、漫画を活用した観光プロモーションを行っているが、実際のところ、ベトナム人の方が、漫画を目的に多く来られるということはあるか？
- 例えば、フランスや韓国の方は、漫画を目的とすることもあるが、ベトナム人旅行客の7割は日本に初めて行く方であるので、何か特定のものに目的を絞っていくことは少ない。ただ、名探偵コナンは、ベトナム人が知っている漫画の5本の指に入る。旅行フェアでも名探偵コナンは大人気だが、鳥取県とイメージが結びついていない。
- 所長が言われたように何かと写真を撮りたいということであれば、コナンが町にいれば、一緒に写真を撮りたいということになるか？

- コナン君がいると、皆が喜ぶ。着ぐるみというか、ゆるキャラは好きなので、コナン君がいれば、喜んで写真を撮ると思う。先日、ハノイの旅行博にコナン君が来てくれたが、よく冗談で、会場にコナン君がいると、何か事件が起きたのか？と聞かれるぐらい、皆がストーリーを知っている。
- ただ、団体旅行が多いので、自分の趣味だけで行くのは、まだなかなか難しい。
- 韓国と日本はそれほど距離が変わらないのに、ベトナムからのツアー価格に大きな差がある理由は？
- 日本よりもLCCが多く就航しているため。韓国は、K-POPや韓流ドラマなど、非常に身近となっており、割と若い方でも韓国に旅行に行けるようになっている。
- 鳥取は、関空からの分のオプションツアーということになると思うが？
- 他の人が行ってないところに行って、ソーシャルメディアで自慢したいということで、付加価値が高い。
- ベトナムの人は、温泉に興味があるか？
- ベトナムにも温泉があるが、冷泉の場合があり、水着を着て入るケースが多い。大浴場に入る習慣はあまりないが、最近、日本の温泉が健康に良いということが浸透してきているので、旅程の中で一日は旅館に泊まってみたいということはあると思う。
- 大山では、雪と桜が同時に体験できる。
- ベトナム人にとって、非常に体験してみたい要素。まず雪と桜というインパクトのある写真を見せて、興味を引いてから「鳥取県」を出したほうが、印象に残りやすい。
- ホーチミンは相当活気があったが、インフラの整備は進んでいないと感じた。
- 新しいものや流行は南から入って、制度や決まり事は北からという状況。インフラは、今、都市交通を整備しているところであり、これが整うと違ってくると思う。ここ1～2年で携帯電話も爆発的に普及した。
- ハノイやホーチミンから直行便が出ているのは？
- 成田、羽田、中部、関西、福岡。
- ローカル空港がない。
- 地方空港と直行便を結ぶにあたり、航空会社が考えることは、ベトナムからどれだけ乗るかということだけではなく、日本からどれだけ乗っていただけるかということ。やはり日本人客の需要を開拓していくことが非常に重要。
- 今回、ハノイとホーチミンの両方を訪問してみて、同じベトナムでも市場が全然違うことがわかった。
- 北と南では、国民性が全然違う。お金の使い方についても、例え話で、100ドルあったら北部の人は貯金し、中部の人は半分使って半分貯金、南部の人は、全部使ってもう100ドル借りに行くということをよく聞く。例えば、チャーター便だと機材の関係で、ハノイからしか届かないというケースが多いが、市場はホーチミンの方が大きい。そういったところを、どう工夫するかがポイントになる。



高橋所長との意見交換の様子



高橋所長を囲んで

(3-5) ベトナム労働・傷病兵・社会問題省等との懇談会

〔対応者〕 労働・傷病兵・社会問題省海外労働局 リエム副局長、ハノイ市友好団体連合会 アン副議長、JIS人材開発 ゴック社長、ホアン・ロン人材派遣 阿部顧問、スキルウェイ協同組合 加藤理事長

人的交流等、ベトナムと鳥取県との更なる交流促進について、意見交換を行った。

【意見交換の概要】(○：訪問団、●：相手方)

- ベトナムと鳥取県との人的交流の拡大や、経済交流の促進を図るため、鳥取県議会として初めて、ベトナムを訪問させていただいた。
- 鳥取には、技能実習生を中心に、多くのベトナム人にお越しいただいており、現在、800人を超えるベトナム人の方が、鳥取県に住んでいただいている。
- 鳥取県では、ベトナムの方をはじめ、外国の方々への就労支援や生活支援についての取組を進めているところ。
- 観光誘客の促進や、県産品の輸出促進にも取り組んでいるところであるが、鳥取県のベトナムでの活動は、まだ緒に就いたばかりであり、今回の訪問で得られた成果を生かし、さらに取組を進めてまいりたいと考えている。
- 今回の訪問を機に、ベトナムと本県との交流が深まることを期待している。
- 鳥取県をはじめ、日本には多くのベトナム人技能実習生や留学生を受け入れていただいております。感謝する。
- ベトナム労働・傷病兵・社会問題省では、送出機関を指導・監視し、技能実習制度等が適正、円滑に行われるよう取り組んでいる。
- 日本のベトナム大使館で6年間働いていたことがあり、その際に、何度も鳥取県に行ったことがある。当時から、ベトナムから日本に技能実習生等が行っていたが、現在では、鳥取県でも多くのベトナム人技能実習生が働いている。
- 今回、鳥取県議会の皆様がハノイを訪れていただいたことに大変感謝している。日本へ技能実習に行きたい学生が増えており、今後も、鳥取県をはじめ、日本に多くのベトナム人技能実習生等をお送りするので、受け入れについては是非、協力をお願いしたい。

- 今、ベトナムには、多くの送り出し機関があり、中には、日本語教育が不十分であるとか、対応に問題がある機関もあるが、我々、送り出し機関と受け入れ団体がうまく連携して、不幸な事例を出さないよう、しっかりとした日本語教育をはじめ、派遣先との適切なマッチング等について、今後も徹底していきたい。
- ハノイ市友好団体連合会は、ハノイ市における国際交流の窓口をさせていただいている。昨日、鳥取市と連携協定を結ぶ方向で合意をした、具体的な内容については、これから協議をして決めていく状況。
今後、ハノイ市友好団体連合会としても、鳥取市をはじめ、鳥取県と交流を深めていきたい。鳥取県にお伺いしたい際には、皆様と再会することを願っている。



意見交換の様子（一番左がリエム副局長、左から3番目がアン副議長）